

**製品名: MLK1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13951**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	MAP3K9
別名	MAP3K9; MLK1; PRKE1; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 9; Mixed lineage kinase 1
遺伝子 ID	4293.0
SwissProt ID	P80192
免疫原	抗血清はヒト MAP3K9 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 561-610

**背景**

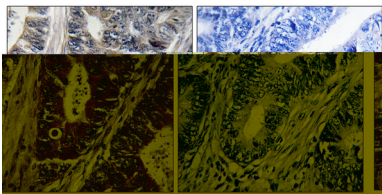
MAP3K9 (マイトジェン活性化プロテインキナーゼキナーゼキナーゼ 9) は、タンパク質コード遺伝子です。MAP3K9 に関連する疾

患には、後腹膜神経芽腫などがあります。関連パスウェイには、MAPキナーゼシグナル伝達と TGF- $\beta$  経路があります。この遺伝子に関連する GO アノテーションには、タンパク質ホモ二量体化活性とタンパク質キナーゼ活性があります。この遺伝子の重要なパラログは KSR1 です。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: ロイシンジッパードメインを介したホモ二量体化は、自己リン酸化とそれに続く活性化に必要です。機能: JUN N 末端経路を活性化します。PTM: 活性化ループ内のセリンおよびスレオニン残基の自己リン酸化は、酵素活性化に役割を果たします。Thr-312 が主要な自己リン酸化部位であると考えられる。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAPキナーゼキナーゼキナーゼサブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 1つのSH3ドメインを含む。サブユニット: ホモ二量体。組織特異性: 結腸、乳房、食道起源の上皮腫瘍細胞株で発現する。

## 研究分野

アクチンダイナミクスの制御; SAPK\_JNK; 幹細胞経路; B細胞抗原

## 画像データ



MAP3K9 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。